

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「地域に信頼され人々との交流が、自由に出来るように支援します」というグループホーム独自のものを掲げて、地域とのかかわりを大切にしている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時のオリエンテーションで理念を伝え、理解してもらうように説明している。共有の場であるホールの良い見える所に掲げ、朝礼で声をそろえて唱和することで、理念の実践に向けて取り組んでいる	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレット、理念の掲示などにより家族や訪れる人々へホームの理念を伝えるようにしている。ホーム便りを3ヶ月に1回発行し、地域の方々やご家族に配布し、事業所運営について理解してもらえるようにしている。	地域の行事などにもできるだけ参加したり、折に触れ事業所の実践状況を伝えるように広報活動をしている。又、運営推進会議等の場を持って努力している。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	誰でも、何時でも気軽に見学したり、立ち寄ってもらえるように門構えなどなく、入り口も普段は施錠など行っていない。	職員の子供や、友人等がボランティアや遊びに訪れたり、町内の方が気楽に相談に来られたりしやすい雰囲気づくりをしている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に入会し、敬老会、運動会、夏祭りなどに参加し、交流を深めている。校区の生涯学習発表会などにも入居者も参加したり、見学したりと色々な形で参加し、地域との交流を図っている。	地域より、色々な行事など誘われたり、出し物のレクリエーション等気軽に相談や、習いに来所されている。地域の「安全市民パトロールSAP隊」の一員として活動したり、職員が地域の消防団員に入隊し、活躍している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	希望があれば、地域の人々が生涯学習会に出されるおどりなどに協力をして喜んでいただいている。		地域の色々な行事に、職員が出し物を持って参加している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価、自己評価の意義を職員会議や朝礼、終礼でことあるごとに話し、外部評価の結果を踏まえ、改善できるところは実践している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は運営推進会議を開催し運営の状況報告や、情報交換などしてサービス向上へ繋げている。そこでの話しを共有できるように申し送りの中で話しをしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の説明会や研修会には参加し、問題が発生したときには必要に応じて、市の担当窓口にご相談している。		地域包括支援センターにも、運営推進会議にも参加してもらい、意見交換などもしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今の所該当者はいないが、学ぶ機会を研修やパンフレットなどを通じて勉強している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演会や研修会を機会あるごとに職員が受け、その他の職員にも報告し、虐待についての意識を高め、虐待防止に努めている		スタッフ間で更なる勉強会などをし、お互いに情報を共有して、虐待を見過ごすことのないように意識を高めて行ける様職員会で勉強会をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>ご家族の面会時には最近の生活、及び身体状況などをお話しし、事業所からの連絡や、家族からの希望を聞くようにしている。又、日々撮った写真をテレビで見れるようにDVDに編集し、ホーム内の生活が分かるように配布している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>年2回は家族会を開催し、入居者やお互いの家族との親睦を図り、その中で疑問や意見などあれば話し合えるようにしている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>新しい職員が入職するときは利用者で紹介し、信頼関係が築けるように支援している。そしてなるべく利用者へのダメージを少なくするようにさりげない交代が出来るようにしている。</p> <p>常日頃全入居者に挨拶し、顔なじみになるように心がけている。入居者間も合同で行事や、レクを行うことなど顔見知りとなっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の開催のお知らせなどは連絡綴りで、職員に周知できるようにし、見たらサインを入れるようにしている。研修内容を職員会議のときに報告し、職員全員で勉強するようにしている。報告書の閲覧は自由である。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連の事業所や他の施設など訪問し、あるいは研修させてもらう事で、職員の意識を高め、室の向上を図るようにしている。介護支援専門員協議会、鹿児島グループ協会等に入会し、研修には積極的に参加している。</p>	<p>他グループホームにも、交代で研修や、年末のグループホーム協議会の親睦忘年会などにも数名参加している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会をことあるごとに開催し、職員の親睦とストレス発散で職員間の和が保てるように努力している。</p>	<p>職員の勤務希望もなるべく多く聴くことにより、家族とのストレスがたまらない様になっている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者も頻繁に現場に来て、何か変化がないかなど職員や利用者に話しかけている。職員の健康状態に配慮し、職員検診やレントゲン、インフルエンザ予防注射など実施し、職務に励むことが出来るようにしている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前の面談で生活状況や個人の特性などを把握するように努め、何回かの面談で、家族を含めお互いの情報を共有し、信頼関係が構築できるように務めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の思いを機会あるごとに良く聴き、ニーズを受け止める努力をしている。これまでの本人、及び家族の生活の経緯、家族関係を把握できるように努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面談の中で、相談内容を把握し、良くニーズを聴き取りどんなサービスで支援が出来るか、家族も一緒に考えるようにしている。さらに必要があれば、他サービスに繋げるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学していただくことから始め、施設で出来るサービスについて説明し、その上で話を進めるようにしている。入所されてからも落ち着かれるまで家族の協力を得て、安心してホームの生活に馴染まれるよう雰囲気作りに特に気をつけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の感情変化に注意し、喜怒哀楽を共にし、共に暮らしの中で共感できるような関係作りに務めている。時には入居者様から逆にスタッフのほうが、励ましの言葉を頂いたりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族連絡表」を毎月の請求書と一緒に送付し、日々の暮らしぶりをお知らせすることで、本人の状況を共有するように努め、ご家族にも行事などに参加していただき、一緒に支えて行けるように努めている。		家族の参加する行事など計画し、常日頃コミュニケーションが取れるように心掛けている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の家族への思いを受け止め、状況を見極めながら、ご家族との外出、外泊で気分転換を図りながら、より良い関係の構築、継続に努めている。		ホームだけの支援でなく、ご家族にも支援していただき、本人との関わりを多く持ってもらっている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや、家族のお見舞いに行かれたりされている。又、何時でも知り合いの方々の面会が気兼ねなく出来るような雰囲気作りを心がけている。		本人宛に手紙やはがきが届いたら、本人に手渡したり、あるいは代読してあげたりし、もらった喜びを共有できるように努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆で過ごす時間も大事にし、又気の合う利用者同士で過ごせる場所作りにも気を配り利用者同士が関わりあえるように支援している。毎日のお茶の時間には職員も話の輪の中には入りコミュニケーションを促すようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要とされる利用者や家族に対しては、継続的な関わりを持つようにし相談などに応じるようにしている。入院で退所された方、特養に入所された方など様子伺いに行き喜ばれた。		ご家族からの、状況報告や、相談などもあり、その都度対応している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、声かけにより、言葉や表情の中で真意を読み取り、本人本位の意向を押し量れるように、あるいはご家族の思いを汲み取れるように調整していくように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で本人やご家族の生活歴などを聞き、又入所後も折に触れ、話の中で情報を得るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	身体情報のチェック表、経過記録などを通して利用者一人一人の生活リズム(食事、排泄、生活習慣など)を理解するようにしている。出来ることに注目し心理面の視点などを通して本人の全体像をつかむようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ビールなどの嗜好を本人、家族の方の希望も聞いており、夏まつり、バーベキュー等計画し、医療面で害のない程度、飲めの機会を作っている。急激な身体機能の低下の方に出る範囲で、足の上げ下ろし、立位訓練などしてもらっている。スタッフで出来る部分(メドマ、簡単な運動など)支援計画の中に入れていく。		本人の自由な生活(制限のない生活)をホームとしても望んでいる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、家族と話し合い計画の見直しをしている。見直し以前に変化が生じた場合、現状に即した介護区分の変更を申請したり、現状に即した介護計画の見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録に本人の言葉、態度など、それに関わるスタッフの関わり方も記録している。日常の変化や連絡に関しては、個人別に記入できる連絡帳を使い、勤務に着く前に目を通し、情報を全員で共有できるようにしている。		機会あるごとに常に、記録は、見込みで書くのではなく、結果を書いて全員で情報は共有するように教育している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物や気分転換などに対応して外出を計画するなど臨機応変に対応している。		地域の方々の介護相談、レクリエーションなども対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの支援を受けている。警察や消防関係の方々とことあるごとに連携を取って、防災訓練、普通救命士研修実施している。又地域の行事に際しては町内会の方々の協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅のケアマネや地域包括センターの方々の支援を受けながら、本人や家族の状況に応じて、老健、特養、病院などと連携をとっている。希望に応じて、訪問理美容を受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの協力を得て、運営推進会議などの中で、意見の交換、指導、助言、援助などを受けている。		常に業務の中で包括支援センターとは連絡を取っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先し、主治医を決めていただき、往診や家族による受診及び診療情報などいただけるような関係を築き、本人のために適切な医療が受けいただけるような配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の診断を受けられてからの入所となっているので、それに基づいて治療、服薬を受けられるように支援している。必要に応じて本人の状況を主治医に連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	准看護職が3名おり、又理事長も(Dr)も頻繁にこられ、日常の健康管理や健康維持に気をつけている。検査の必要や治療が必要であれば、専門医の受診につなげている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはホームでの本人の状況、身体レベル、こだわりなどを情報提供し、入院中の生活がスムーズに行くように支援する。そして早期に退院できるように、家族や医療関係者との連絡を取れるように努めている。退院時にはサマリーを頂き、ホームでの生活に戻れるような体制づくりに努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う事業所が対応しうる最大のケアについて説明を行い、状態の変化に伴い、本人や家族やの思いに繋がるように、主治医とも連絡を取り合うようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療行為が必要になった時には、家族と十分協議、検討の上、医療機関、施設などと連携をとっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の状態や生活歴など聴き、情報を貰い、時間を掛けて、本人の住まいの移動によるダメージが少しでも緩和できるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図ると共に、プライバシーを損ねる言動を慎むように日々の介護の中で注意をしている。個人情報が入居時に個人情報取り扱い同意書に同意を頂き、それに基づいて取り扱っている。個人情報は事務所で保管し、外部の目に触れないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人がどうしたいのかを言葉に限らず、動きや目の表情などで読み取り、その人のコミュニケーション能力に応じた話掛けをして、本人が納得あるいは自分の意思表示ができるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、部屋でのくつろぎ、読書など一人ひとりのペースを大事にしつつ、食事やお茶の時間などは全員でなるべく揃うことも大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があればホームで訪問理容があるが、ご家族が来てされる方もあれば、ご家族が地域の店に連れて行かれる方もある。家族の希望に応じるように努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出きる方には料理の下ごしらえや、味見などあるいは後片付けを手伝ってもらって、出きる部分を生かすようにしている。食事は皆と一緒に皆で「いただきます」の挨拶と共にゆっくり食事ができるように、BGMを流したりして環境づくりに努めている。	利用者と職員と一緒に同じものを食べ、後片付けなども一緒にしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	生活する中で、職員が入居者の嗜好を見落とすことなく、医療面で問題がなければ、酒、オヤツ等も希望に添うようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターン、習慣を職員が把握できるように努め、本人の自尊心を大切にし、オムツの使用が減らせるように排泄の誘導、介助をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴の曜日や時間帯は決まっているが、一人ひとりの希望やタイミングがあるので、柔軟な対応を心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	レクや体操など日中の活動を促し、夕方からは穏やかに過ごせるように繋げている。また個別に本人の体調や身体状況に応じてその時々でスタッフ間で話し合い休んでもらったりしている。導眠剤については医療との連携で調整に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、料理の下ごしらえ、後片付けなどお願ひできそうなことをスタッフと一緒にすることで、生活に張りが持てるように支援している。終わったら感謝の言葉を添え、できることを少しでも増やし、得意な部分を支援することで自信や喜びを感じることに繋がるように努めている。		地域にホームだよりを配布したり、花壇に水撒きなど職員と一緒に関わるようにしている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いの中で、了承してもらい、本人がお金を持つことで、安心感がある方には本人が使える範囲の中で、日用品や飲みものなど程度であったら了承して社会性の維持につなげている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じてドライブや、外出レクなどによって気分転換を図り季節を肌で感じていただく共に、生き生きと過ごせる場面づくりに努力している。		午後、食材の買物に交代で外出できる機会も作っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の思いや願ひがかなえられるように、利用者、家族と相談し、ご家族に協力を得ている。ソーマン流しやコスモス見学など普段いけないところへの外出を計画し、ご家族も一緒に出かける楽しさを作るように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手から電話がかかってきたら取次ぎ、ゆっくりと話せる場所を提供している。電話など希望があればいつでもできるように支援している。贈り物や、手紙などが届いたら、お礼の電話を本人と共に掛けるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間などは決めておらずいつでも気兼ねなく訪れ、ゆっくり過ごしてもらえるように、自然体で迎えている。希望があれば、食事を一緒にとってもらうことも可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議や日々の申し送りの中で、自覚しない身体拘束がないか常にスタッフ間で情報を共有し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に出て行く気配を職員が察知し、さりげない声掛けをしたり、見守りや連携プレーができるようにし、安全面に配慮しつつ、自由な生活ができるように尾支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録をとるときも職員は、利用者の動きがよくわかる場所に座り、常に入居者の動きに目配りをしながら行っている。各階のドアに鈴をつけ出入りが把握できるようにしている。夜間も常に利用者の様子を確認すると共に、何か変化があればすぐに対応できるように配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	嚴重に保管するべきもの(包丁、薬品など)は保管の場所を定め、状況に応じて危険を防ぐようにしている。はさみなど使用を妨げるものではなく、使用しないときには所定の場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告があれば記録し、報告書を作成し、職員で情報を共有することで、今後の事故防止に活用している。個人個人の状態を把握し、リスクの高い部分への見守り、支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が普通救命講習を受け、人工呼吸や蘇生術を受けることで事故に備えている。		3時間と1時間コースの講習を組み合わせ、繰り返し勉強をすることで、職員の意識の向上とスキルアップを図っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は利用者と共に避難訓練、消火器の「使い方等防災訓練を行っている。地域の協力たいせいについては、自治会や運営推進会議で協力を呼びかけている。		職員間の緊急連絡網の伝達訓練も行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	高齢であるので活動や外出などにより起こりうるリスクを常に念頭におきつつ、ご家族にもその兼ね合いを話し、理解していただきながら、入居者の生活が活発なものになるように支援する。		カンファレンスや面会時に、ご家族に本人の状況を話し、リスクに対する理解を得るようにしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも変化があれば、細めにチェックを行い、上司、准看護師の判断を仰ぎ、必要があれば速やかに医療受診につなげるようにご家族に連絡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認チェック表をつけ服薬支援を行っている。処方箋のコピーを個人ケースごとに入れておき、薬の内容を把握するように努めている。症状の変化があれば、上司、准看護師に報告し判断を仰ぐようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないように乳製品や水分の摂取には特に気を配り、繊維質の食材を取り入れるようにしている。できるだけ体操やレクで体を動かすようにしている。その人の状態に合わせた薬剤の調整を図っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを声掛けし、個人の出きる力に配慮しつつ、必要に応じて磨き方の不十分な人は職員が見守りや、手伝いをしている。		義歯の除菌にはポリデントなどを使って夜間洗浄している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分チェック表に摂取状況を記入し、職員が情報を共有し、大まかな1日の状態を把握するようにしている。その日の食事担当者が、食事内容と材料を記録している。		個人によっては宅配牛乳やヨーグルトなど好みのもので補足できるように努めている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、職員がいつでも見ることができるようにしている。インフルエンザの予防注射を職員、入居者全員受けている。感染症予防の為に、ペーパータオルを使用するなど予防に注意している。玄関先や洗面台に消毒液を常備し予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所の水周りの清潔、衛生を保つように心がけ、定期的なまな板、付近などは消毒している。更に曜日ごとに重点的な掃除をする場所を決め、実行している。食材に購入日を書いたり、料理担当者が冷蔵庫の在庫チェックをするなどして賞味期限内に消費するように気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に花壇を作ったり、玄関口にプランターを置いたりして、明るい雰囲気づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや照明で光の調節を行い、テレビや音楽の音量を調節して不快感が無いように配慮している。対面式の台所で、調理人の顔が見え、食欲を注ぐ音や匂いが漂い生活感がある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にはソファが置いてあり、仲の良い入居者同士やご家族がくつろげるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の使い方は、入居者やご家族の意向を尊重しており、テレビや机など使い慣れたものを持ってこられている方もある。居室に花や写真など飾られたりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレは自動センサーにより照明と換気扇が連動して動くようになっている。居室やリビングの空調は、入居者の様子や希望に応じて調整している。換気は小まめにするように心がけ、特に朝は外気を入れるようにしている。		今年の夏は建物の屋根に水を撒く装置を利用することで、温度調整がかなり出来た。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカ、トイレ、風呂場の手すりを利用することで、入居者の身体能力に合わせた介助が図れている。夜間には必要に応じて居室にポータブルトイレを置き、安全に排泄ができるようにし、自立した生活が送れるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には名前と花の絵を掲げ、目印になるようにしている。トイレは入居者が、分かりやすいように、字と絵文字で入居者が分かりやすいようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭で外気浴やテーブルを出してお茶をしたり、している。建物の周辺には花を植えたり、裏の畑を作って利用者と一緒に水遣りしたりして、成長を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域に開かれた施設作りに努め、何時でも家族や地域の方々々が気兼ねなく訪問していただけるような、明るく親しみのある施設作りを心掛けている。ホームや地域の行事などには、入居者や家族、又職員や地域の方々も一緒に参加したりして楽しむようにしている。入居者の個性を尊重し、その方の時間の流れを大切にケアを実践している。